

てんじしょうかい  
展示紹介

ツチクジラ

とやまわん たいちよう 10 mもの大きなクジラが回遊して(かいゆう)くることを知っていますか? 2階展示室の「とやま空間のたび」の「海」のコーナーのツチクジラです。いったいどんなクジラでしょうか?

●ツチクジラ

ツチクジラは、北太平洋、オホーツク海、日本海に生息し、太平洋側では相模湾より北に分布します。富山湾には6、7月頃に群れがやってきます。展示してあるツチクジラは、2001年6月22日に秋田県八竜町(現在、三種町)の海岸に死んで漂着したものです。このクジラの胃の中からは、イカの口が800匹分ほどでてきました。太平洋側では、夏に水深1000~3000 mの大陸棚斜面の海域でツチクジラが発見されています。ツチクジラは深海にもぐりイカなどを食べているようです。

ツチクジラの体の表面には、仲間どうしがあそびた時にできたヒッカキ傷がよくついています。下あごの先端には三角形の歯が4本あり、体のキズはこの歯でできたものです。不思議なことにオスの方がメスより30年ほど長生きで、最高寿命はメス54年、オス84年です。

●骨をみてみよう

5000万年まえほどのクジラの祖先には、手足があり、水中を歩いていた。それが、長い進化の過程で、後足が退化し、前足は胸ビレになりました。鼻の穴も頭の上の方に移動し、呼吸がしやすくなりました。展示してある骨格をみると、胸ビレには、手や指の骨があり、後ろ足は退化してなくなっていますが、骨盤の名残の骨(おしりの方にある1対の棒のような骨)が残っていることがわかります。首の骨は1個1個が薄くなり、前の方は融合し、首が短くなり、水の抵抗が受けにくくなっています。クジラは長い間かかり水中生活に適した体になったことが展示してある骨からわかりますので観察してみてください。

